アブドッラー国王、即位1周年

二聖モスクの守護者アブドッラー国王がサウジアラビア王国第六代国王に即位してから一年がたちました。アブドッラー国王は国民の生活向上を優先し、また国家経済の発展を促進しています。この王位１年目で、国内の教育、経済、農業、工業、文化、社会など様々な分野が広範囲にわたり進展してきました。対外的にもアブドッラー国王は世界の平和と人類の繁栄のために積極的にリーダーシップの立場をとっています。

政治においては、初代アブドゥルアジーズ国王の時代からの政策を引き継ぎ、中庸と調和と英知と先見を基礎としています。また教育においては、国内に12校の大学を新設し、多くの専門学校及び女子教育専門校が開校しました。経済分野ではジュベイル、ハーイル、ラービグの３地域を新たに工業都市として開発し、メディナ空港の拡張計画やラービグ経済都市空港の建設が決定されるなどインフラの拡大に努めています。

一方外交においては、2006年1月24日から2月2日までアブドッラー国王は中国、インド、マレーシア、パキスタンの４カ国を訪問し、各国首脳陣らと経済協力、地域問題、国際問題等について議論しました。

アブドッラー国王は2000年にリヤードで開かれた第7回国際エネルギーフォーラムで事務局の創設を提案し、大阪で開催された第8回国際エネルギーフォーラムで同事務局をリヤードに設置することで合意しました。これにより、昨年11月に同事務局がリヤード市内にオープンしました。

昨年末にサウジアラビアは正式に149カ国目のメンバーとしてWTO（世界貿易機関）に加盟しました。これを機会に、資源に恵まれた国としてさらなる経済発展が見込まれ、特に石油化学部門においても世界で競争力のある国となることが期待されています。

アブドッラー国王は自身の経験を生かし、スルタン皇太子とともに国内外においてサウジアラビア王国の政治、経済、商業分野の発展に力を注いでいます。

スルタン皇太子殿下訪日

今年の4月5日から7日まで、スルタン皇太子殿下が日本を公式訪問され、天皇陛下、皇太子殿下、小泉首相らをはじめ多数の官民の代表者と会われて、意見交換をされました。これを契機に両国の関係が一層深まることが期待されています。

親愛なる日本の皆様

スルタン皇太子殿下

1960年に初めてこの国を訪れたとき、日本の皆様の温かい歓迎を受けました。今日、私はサウジアラビア王国の国民ならびに政府の親愛の情と感謝の気持を携えて、再びこの美しい国に参りました。イスラムの二大聖地を擁し、イスラムの教えを忠実に守るサウジアラビアは、テロと闘い、国際社会に平和と安定をもたらす努力をしています。また、重要な石油供給国として、石油市場の安定化を通じて世界経済の発展を支えております。日本は国民の勤勉により戦争の痛手から立ち直り、先進国の一つとして世界第二の経済大国となりました。いまや両国は世界の尊敬と高い評価を受けるに至り、同時に国際社会での責任も重くなっております。

（経済団体、日・サ協会共催昼食会でのスピーチより抜粋）

天皇陛下とご会見
（写真提供：宮内庁報道室）

羽田空港で徳仁皇太子殿下のお出迎え

小泉首相と会談（写真提供：内閣広報室）

日本サウジアラビア協会の代表者と

経済四団体、日・サ協会共催昼食会で財界代表者と

早稲田大学から名誉博士学士を授与される
（写真提供：早稲田大学）

キング・アブドッラー・エコノミック・シティ

紅海沿岸のジェッダ北部にキング・アブドッラー・エコノミック・シティの建設が昨年12月21日に始まりました。このキング・アブドッラー・エコノミック・シティは総敷地面積255平方キロメートルに港湾、工業、金融地区や、娯楽、医療、教育施設が整備され、現在投資額は約266億米ドルと予想されています。経済の拡大、若年世代の雇用機会の創出、また国内外からの投資促進、国際貿易、商工業分野の活性化を目的として、アブドッラー国王自らこのプロジェクトを発案しました。サウジアラビア総合投資院（SAGIA）は煩雑な手続きを簡略化し、より速やかに事業を展開できるように設立されました。そしてSAGIAが中心となりこのプロジェクトを進め、国内の投資環境を整え、投資家のニーズに見合った投資案件やパートナーの紹介を行っています。

住宅地区完成予想図

サウジアラビア航空、関西空港より就航

2006年9月6日サウジアラビア航空は関西空港とリヤード・ジェッダ間を結ぶ路線に就航しました。近年日本人観光客の間で新しい渡航先としてサウジアラビアへの期待が高まっています。

（写真提供：トラベルビジョン）